

# 〔乳腺内分泌外科〕

## 研修の特徴と内容

### 【特徴】

乳腺疾患の診療には高度の専門知識と特徴的な手技が求められ、乳腺・内分泌外科は外科学のなかで独立して診療を行っています。乳癌は女性にできる癌の中で最も多く、今後とも増加すると予想されますが、専門医の数はまだまだ足りず、より多くの専門医が求められています。特に女性の疾患であることから、女性医師の活躍が期待されている診療科です。当科では、乳腺疾患を中心に、内分泌外科（副甲状腺、甲状腺良性疾患）も診療しています。

乳腺外科では、患者さんの診断、手術、術後の薬物療法、再発治療を行っています。さらに新しい薬や治療法の開発につながる治験や臨床試験にも取り組んでいます。8名の医師が所属しており、外来から入院、手術、薬物療法にいたるまで、マンツーマンで丁寧に指導します。乳腺外科ではマンモグラフィーの読影や手術、薬物療法といった特殊性を有しています。将来乳腺外科を専門にしない医師にとっても、乳癌の知識を取得することは将来の診療に役立ちます。また、乳癌が女性の精神的な面に与える影響を理解することは、患者さんの心理をより深く理解し、コミュニケーション能力を高める一助となります。

研修の骨格：臨床研修制度の主旨に則り、まずは臨床医として習得しておくべき基本的診療の知識、技術を下記のプログラムに沿って経験し、修得、発展させます。将来外科医を目指す者には外科研修のプログラムの第1章として位置付けることが可能であり、外科専門医取得のための症例を経験することが可能です。将来他科を専攻する者には、医師として習得しておくべき乳腺外科の診断や手技を獲得する唯一の機会として企画されています。

### 【内容】

#### ① 一般目標（G I O）

乳腺・内分泌外科の基礎的知識と技術を習得するとともに、チームの一員として診断、手術、薬物治療に参加することで、乳腺外科学に対する基本的な診療能力を身につける。

#### ② 行動目標（S B O）

1. 各疾患について、乳腺外科的治療の適応に関する基本的診療能力の向上に努める。(技能)
2. 患者と医師との関係について、I C (Informed consent)を通じて良好に理解しあう環境を築くことができる。(解釈)
3. 医療を行う際の安全確認の考え方を理解し安全管理が行える (問題解決)。
4. 乳腺外科の診療に必要な処置、手技、周術期管理 (輸液路の確保、輸液管理、ドレーン管理、清潔操作、皮膚切開、縫合、糸結び、)を理解し、行うことができる。(技能)
5. 手術をはじめ乳腺外科診療上で必要な基礎的知識 (局所解剖、輸液と輸血、外科的感染症、創傷治癒管理、腫瘍学、外科病理学) についての述べる事ができる。(技能)
6. 患者の病歴の聴取と記録ができ、基本的な身体診察法を理解し行える(技能)。
7. 外科的患者の治療計画を立案できる。(問題解決)
8. カンファレンスに参加し、症例のプレゼンテーションをおこなう。(問題解決)
9. 乳腺疾患の診療に必要な画像診断 (マンモグラフィー、超音波エコー、MR I 検査、C T 検査等) の読影方法が理解できる。(解釈)
10. 疾患に応じた薬物療法の選択が出来る。(問題解決)
11. 入院患者の病態に応じた必要な検査、治療の計画を立てる。(問題解決)
12. 臨床上の問題点からその疑問点を見つけ出し、議論することができる。(問題解決)

13. 病棟患者への分かりやすい初期説明が実施できる。(態度)
14. 外科部門スタッフ(同僚医師、上級医師、パラメディカル等)と良好なコミュニケーションをとることができる。(態度)
15. 外科緊急時の対応を理解することができる。(知識)

③ 研修内容(方略)(LS)

LS1 On the job training(OJT)

1. チームの一員として、指導医、上級医のもと診療に参加し、臨床実習学生を指導する。
2. 毎日の回診に参加する。

LS2 勉強会・カンファレンス

<週間スケジュール>

1. 抄読会: 毎月曜日 8:00 より
2. 症例カンファレンス(術前、術後症例の合同カンファレンス): 毎火曜日 17:30 より

④ 研修評価(EV)

1. 自己評価

受け持ち症例のサマリーをファイルし、EPOCを入力する。

2. 指導医による評価

受け持ち症例のサマリーの内容、EPOCの入力状況、診療チーム内での勤務状況や姿勢を参考に評価する。

## 指導医

教授: 三好 康雄(乳腺・内分泌外科 責任者)

客員教授: 高塚 雄一

准教授: 荒木 和浩

助教: 今村 美智子、村瀬 慶子

病院助手: 柳井亜矢子、宮川義仁

## 研修実施責任者

教授: 三好 康雄